

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

愛知文教大学では、全学的な取り組みと学科独自の取り組みを、1年次からカリキュラム内外において、教員養成に係る資質の向上をめざして取り組んでいる。

1. 教育インターンシップ：教育委員会との連携事業

小牧市教育委員会と愛知文教大学は、平成21年度、学校支援チューター制度の提携を行なった。教職希望の大学1年次は、9月に小牧市立桃丘小学校・小牧市立篠岡小学校・小牧市立光が丘小学校・小牧市立大城小学校において2日間の学習チューターを行う。大学での科目は、教育インターンシップという名称であるが、小牧市教育委員会では学習チューター制度という名称である。小学校内の各教室において、様々な学習の支援を、児童と共に給食を食べる、休憩時間に遊ぶといった活動を行い、教師の仕事の内容や、児童の実態を理解する。また、希望者は、1年生の秋期から教育インターンシップの活動を行う。

2. 教育実習の改善・充実：事前指導・実習校との連携・事後指導

教育実習に参加する学生に対しては、指導案の書き方、模擬授業等の指導を行う。国語科や英語科の指導案、道徳科の指導案の指導に対しては、教科の担当教員と、教職の教員が共同で指導に当たる。教育実習期間中に、ゼミ担当の教員を中心として、大学教員が実習校を訪問し、実習期間中における学生の様子を聞き、指導を行う。教育実習後、授業や生活における様々な指導について振り返り、改善点を考えさせる。

3. 教職ポートフォリオ：4年間を見通した指導

教職ポートフォリオは、各学年の履修内容をファイルし、4年次に自分の学習の成長の過程を振り返り、よりよい教師としての資質や能力を身に付けることができるものとする。教職ポートフォリオは、紙媒体をファイルする形と、グーグルクラスルーム等のICTを利用した個人ファイルの内容を表す。教職ポートフォリオの内容は、毎回の授業の振り返りシート、提出したレポート等である。紙媒体をファイルしたものは、教職課程研究センターに保管して、必要に応じて学生が、ファイルし、閲覧することができる。4年次の「教職実践演習」の学習において、「教職ポートフォリオ」を利用して、自身の教職の学習の歩みを振り返り、これまでの学習において不足している内容を考え、今後の学習の指針とさせる。教職ポートフォリオの作成、振り返りを通して、自分の学習の蓄積をもとにして、学び続けることの意義を認識させ、生涯学び続けることの重要性を認識させる。

4. 教職課程研究センター：きめ細かな指導

本学では、教師を目指す学生を総合的に指導支援するために教職課程研究センターを設置している。教職課程研究センターには、教育に関する書籍や、教員採用試験対策の書籍が置かれており、教職学生が学習室として利用できるようになっている。また、教員採用試験対策や教職への就職支援を行う場所でもある。希望者を対象として、夏季休業中、春季休業中において教員採用試験対策講座を実施している。内容は、教科教養指導、教職教養指導、面接指導、指導案作成指導、模擬授業指導等を行い、教師としての能力育成を担っている。

以上